

Koku Jun

こくじゅん通信

特集 | close up

周産期・婦人科



国立循環器病研究センター

National Cerebral and Cardiovascular Center



国立循環器病研究センター理念

私たち、国民の健康と幸福のため、高度専門医療研究センターとして循環器疾患の究明と制圧に挑みます。

基本方針

- 1 循環器病のモデル医療や世界の先端に立つ高度先駆的医療を提供します。
- 2 透明性と高い倫理性に基づいた安全で質の高い医療を実現します。
- 3 研究所と病院が一体となって循環器病の最先端の研究を推進します。
- 4 循環器病医療にかかるさまざまな専門家とリーダーを育成します。
- 5 全職員が誇りとやりがいを持って働ける環境づくりを実践します。

安全で安心な妊娠・分娩管理で生命をつなぐ

周産期・婦人科 部長 吉松 淳

周産期・婦人科

国循の周産期・婦人科では年間約300例の分娩を取り扱っています。もちろん合併症の無い分娩も取り扱っていますが、国循の特性を生かした妊娠・分娩管理をその中心に据えています。具体的には次の3つを診療の柱としています。

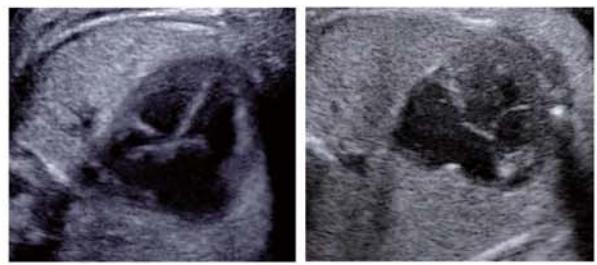
まず、心疾患を持つお母さんの妊娠・分娩管理、それから、脳血管疾患を持つお母さんの妊娠・分娩管理、そして、赤ちゃんに心疾患があるお母さんの妊娠・分娩管理です。私達の施設にはトップレベルの心臓血管疾患、脳血管疾患の専門家が数多くいます。私達は妊娠・分娩管理の専門家としてともに協力し合って診療を進めています。



協力の元、集約的な管理を行っています。

お腹の中にいる赤ちゃんの心疾患に対する診断技術の向上も目を見張るものがあります。私達は正確な診断に基づき、予想される生まれた後の経過をシミュレーションし、どのような準備をしてどのように生まれてきてもらうのかを小児科医、外科医、麻酔科医と協力して検討しています。その上でこそ生まれた後の治療に良い形でつなげられる妊娠・分娩管理を行なうことができます。

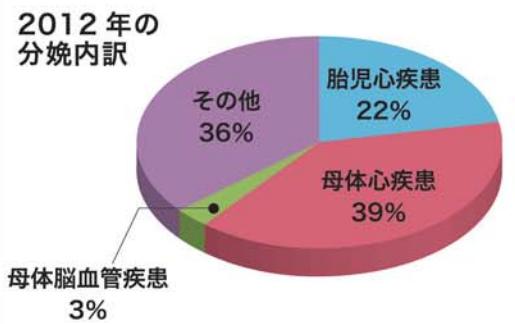
心疾患を持つ赤ちゃんが国循で生まれ、治療を受け育ついく、そして、大人になって妊娠し、自分の生まれた国循で子どもを産む。私達の施設はそんなふうに生命がつながっていく場所でありたいと思っています。



左の超音波画像では心臓の4腔がバランスよく映し出されていますが右側の画像ではバランスが崩れています。このような基本的な断面での診断だけではなく、血管の走行や血流の速さなどを評価して総合的に分娩後の治療計画を立てます。

特集

close up



周産期・婦人科 部長 吉松 淳 (よしまつ じゅん)

1987年 大分医科大学医学部 卒業
1989年 大分医科大学医学部附属病院 産科婦人科 助手
1994年 国立大分病院 産婦人科 医師
1995年 大分医科大学医学部附属病院 産科婦人科 助手
2000年 大分医科大学医学部附属病院 産科婦人科 講師
2001年 National Institute of Health/National Institute of Child Health and Disease, Perinatal research Branch (Professor Roberto Romero)
Detroit, Michigan, USA, Research fellow
2006年 大分医科大学医学部附属病院 産科婦人科 助教授 (現准教授)
2007年 国立循環器病センター 周産期治療部 (現周産期・婦人科) 医長
2009年 大分大学医学部 地域医療・産婦人科 教授
2012年 国立循環器病研究センター 周産期・婦人科 部長
2011年 平成22年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰受賞
2011年 大分大学学長表彰受賞

部門のご紹介

周産期・婦人科病棟 NICU(新生児集中治療室)

Perinatology and Gynecology

心臓病や脳出血などの循環器疾患をもつ女性の「産みたい」気持ちを支え、安全に安心して出産できるよう、チーム一丸で取り組んでいます。



周産期・婦人科が心がけていること

ハイリスクな妊娠・分娩を通して、心のケアと親子の絆を大切にしています

「周産期」とは、一般的に耳慣れない言葉ですが、妊娠後期から新生児早期までの産にまつわる時期を包括しています。国循の周産期・婦人科病棟は、循環器病疾患を合併する妊娠・分娩に加えて婦人科疾患も幅広く診ています。

心臓病や脳出血などの循環器疾患をもつ女性の「産みたい」気持ちを支え、安全に安心して出産できるよう、妊娠初期から医師・助産師・看護師がチームで管理しており、年間約300件のお産を取り扱っています。

また、当病棟はNICU(新生児集中治療室)6床を有しており、超低出生体重児や心疾患を合併する赤ちゃんの集中ケアを行っています。赤ちゃんの成長や予後に対する不安をかかえながら育児をするには、支援者の存在はとても大きいため、退院時には地域と連携してサポート体制を作るようにしています。さらに当センターは大阪府の産科救急搬送システムに参加しており、積極的に救急の受け入れを行っています。

私たちはチーム一丸となってハイリスクのお産、子どもに最善の医療を提供できるよう取り組んでいます。



糖尿病の予防

糖尿病・代謝内科 医長 岸本一郎

糖尿病は、自覚症状がないので放置されやすい病気です。一般的に、高血糖を指摘されてから通院が開始されるまで平均5～10年かかると言われていますが、早期から心血管病のリスクは高くなるため、治療が遅れてしまう状況は好ましくありません。実際、糖尿病の予備群または初期の糖尿病で心筋梗塞・脳卒中を発症し、当センターに運び込まれる方々も多くおられ、できるだけ早く異常を見つけて生活習慣のは正や必要な予防・治療を受けておくことがたいへん重要です。

昨年11月の世界糖尿病デーに際して、当センターで血糖測定イベントを実施しました。(※)

今までに糖尿病と言わされていない269人の方にご参加いただき、検査したところ、正常範囲の方は33%のみであり、将来の糖尿病発症の可能性のある方が40%、現在糖尿病の可能性が否定できない方が27%もおられました(表)。糖尿病や予備群は、高齢化に伴って増加していますが、現状では定期健診を受けていない方や血糖値が高めと言われていても受診していない方が多くおられ、ぜひ定期的な糖尿病健診や診療を受けていただきたいと思います。また、糖尿病を呼び寄せる状態(下記)を知っておいていただき、糖尿病になりにくい適正な生活習慣を身につけていただくことが重要です。

(※) 国循ホームページ参照 <http://hospital.ncvc.go.jp/section/c001/dia-welt2011.html>



(表) 糖尿病といわれていない方の内訳

こんな人は糖尿病に特に注意

- (1) 運動不足である。
- (2) 朝食を抜く、間食が多い、夕食が遅い、早食いである。
- (3) きのこ類・海藻・野菜・果物の摂取が少ない。
- (4) 喫煙者である、禁煙して体重が増えた。
- (5) アルコールを日本酒換算で平均1日2合以上呑んでいる。
- (6) 体重が多い、最近体重が増えた。
- (7) 高血圧がある。
- (8) 親兄弟(姉妹)が糖尿病だ。



(財団法人 国際協力医学研究振興財団のポスターより改変)

かるしお レシピのご紹介 若竹煮



一品料理レシピ

作り方

切り方・その他

- タケノコは小ぶりの物を選び、根の部分の周りをきれいに切り揃える。切り口を下にして穂先を残し根から2/3を2mm幅で切り込みを入れ末広切り。
- 若布は乾燥若布を使用する。ボールにたっぷりの水を加えて若布を浸けておく。
- ふきは缶詰の水煮を使用。繊維に沿って縦半分に切る。向きを変えずに切り口を下にして更に縦半分に切り、3.5cmくらいの長さで斜めに照らして切る。
- 木の芽は小振りのもので形の揃ったものを選ぶ。1枚付

下揃え

- 鍋に若竹煮の八方だしを合わせ、一煮立ちする。
- 鍋にたっぷりの水を加えて一煮立ちする。弱火に変えてじっくりと柔らかくなるまで湯がく。
- 若布をふくらと色よく戻し、ザルに移してしっかりと水気を絞って準備する。
- ふきは熱湯で色よく湯がいて火を通し、水に晒してザルに移し、水気をきる。
- 木の芽は水に晒してからペーパータオルに移し、水気をとて準備する。

仕上げ

- 鍋に若竹煮の八方だしを加え、柔らかく湯がいたタケノコを一煮立ちする。弱火に変え、落とし蓋をしてコトコトと10~15分くらい煮含める。あっさりと美味しく仕上がりがあればふき、若布を加えて一煮立ちしたら火口から外し、味を馴染ませる。

材料(1人分)

タケノコ(新)	30g	<若竹煮の八方だし>	(材料)目安
<浸け地若布>		調味料	
若布	0.5g	砂糖	0.6g
<彩り野菜>		淡口醤油	1cc
ふき	7g	塩	0.12g
<香り添え>		だし汁	30cc
木の芽	0.5g		

(たけのこの下処理)

- タケノコは綺麗に水洗いをして水気をしっかりと拭き取る。
- 先端の1/5くらいの部分を斜めに切り落とす。(落とし過ぎないように注意して切る)
- 切った部分から繊維に沿って垂直に浅く切れ目を入れる。(深く切り過ぎると身の部分を傷つけるので注意!!)
- 味を馴染ませる。

(たけのこの湯がき方)

- 大きな鍋にたけのこ、米ぬか、鷹の爪を入れ、たっぷりの水を加えて一煮立ちする。弱火に替え、落とし蓋をしてコトコトと1時間30分~2時間くらい湯がく。途中、お湯がなくなってきたらその都度足す(大きさによって時間に差があるので注意!!)
- たけのこは竹串で刺して、軽く通るくらいになれば火口から外して鍋ごと冷ます。(米ぬか、鷹の爪によってえぐみ等を取り除くのでしばらく浸けておく)
- 料理する時は水で綺麗に洗い、えぐみが残っている時は水に少し晒してから使う。(ただし晒し過ぎると旨味が損なうので注意!!)

(たけのこの使い方)

- 姫皮** 3cmくらいの長さで3mmくらいの幅で短冊に切る。穂先から下の柔らかい部分を使用する。(ナムル、和え物等に)
- 穂先** くし形、末広等の細工切りをして煮物、吸い物等に使用。
- 根本** 1cm角くらいのサイコロ切り、斜め切りに仕上げ、煮物、炒め物に使用する。

医療法人 共立さわらぎ産婦人科



連携医紹介⑩

共立さわらぎ産婦人科は、平成14年5月に箕面市栗生外院で開院いたしました。約11年が経過いたしました。常勤医は、私、清木康雄と鶴長建充医師、小笠原尚子医師の3名であります。年間約500件の分娩を取り扱っておりますが、周産期には、母体、胎児ないしは新生児の状態が急変することがあり、産婦人科や小児科に限らず、他の診療科との連携は非常に重要であると認識しております。

国立循環器病研究センターは、当院より車で約5分の位置にあり、外来受診や緊急搬送など、周産期科、小児循環器科はじめ専門医の先生方には、かねてより大変お世話になっておりまして、深く感謝申し上げます。国立循環器病研究センターとの病診連携があることによって、患者様に満足していただける医療を提供できるだけではなく、私どもも安心して日々の診療に臨むと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

- 診療科目／産婦人科
- 所在地／〒562-0025 箕面市栗生外院 6-3-5
- 電話番号／072-726-1103
- 診療時間／9:00~12:00 17:00~19:00
(土曜午後 14:00~16:00)
- 休診日／日曜日、祝日
- URL <http://www.sawaragi-hosp.jp>



最新医療・研究情報

次の世代へ
より良い医療を提供

国立循環器病研究センター
バイオバンク



生体試料の収集を開始して1年目を迎える国循バイオバンク。
毎月約100名の患者さまから採血のご同意を頂戴しています。

バイオバンクとは、患者様の血液・体の組織・尿など『生体試料』と診療情報・検査データなど『医療情報』をできる限り多く集め、個人を特定できない様にした上で医学研究に活用させていただく非営利事業です。

近年、バイオバンクは世界的にも整備されてきており、国循を含む6つの国立高度専門医療センターでも連携を取りながらバイオバンク事業を進めています。

国循バイオバンクでは、本事業目的にご同意いただいた患者さまの診療用と同時に採血したバイオバンク用血液をマイナス80度の冷凍庫で保管し、倫理審査で承認を受けた医学研究に提供しますが、生体試料と医療情報は専用システムですべて匿名化しており、個人情報の保護には万全の体制で取り組んでいます。



平成25年6月1日にバイオバンクは生体試料の収集を開始して1年目を迎えます。2階専門外来近くの専用ブースでコーディネーターがバイオバンクについて、できるだけわかりやすく説明させていただき、毎月約100名の患者さまからバイオバンク採血のご同意を頂戴しています。

この事業は多くの医学研究を支え、循環器疾患の将来の新しい治療、創薬に貢献できるものです。

皆様のお子様たちを含む次の世代がより良い医療を受けられるよう、バイオバンクにご理解とご協力をお願いします。

News Release

新人看護師です。 どうぞよろしくお願ひします！



ACCESS

交通アクセス

- JR東海道線・新幹線「新大阪」駅下車→地下鉄御堂筋線・北大阪急行線「千里中央」駅下車→阪急バス5番乗場（一部6番乗場）「循環器病センター前」下車
- 阪急電鉄千里線「北千里」駅下車→阪急バス5番乗場「循環器病センター前」下車
- 大阪国際空港（伊丹空港）→大阪モノレール「千里中央」駅下車→阪急バス5番乗場（一部6番乗場）「循環器病センター前」下車
- 名神高速道路「吹田IC」より約10分
- 名神高速道路「茨木IC」より国道171号線「今宮交差点」を経て約20分

無料シャトルバス（土日祝日以外は毎日運行）

千里中央・北千里・阪急茨木市・JR茨木・石橋・箕面、各駅より発着



※次号は7月発行予定です。

シンボルマーク



「国立循環器病研究センター」は、新しい医療モデルを産み出すクリエイティブな場。それは無限の循環・相互作用となって、つながっていきます。「青」と「赤」のカラーは、静脈と動脈を示すと同時に、医療と研究、知性と情熱、患者と医師といった、対話する要素の相互触発と協力をあらわしています。

【お問い合わせ】

独立行政法人 国立循環器病研究センター 〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5丁目7番1号
国立循環器病研究センター総務課広報係 TEL : 06-6833-5012 (代) <http://www.ncvc.go.jp>

